



青柳園だより

2026年
9月号
文京区立青柳幼稚園

2学期も豊かな体験を

園長 米澤 千秋

今年の夏も線状降水帯や台風、大規模地震など、自然災害が各地で起こりました。被災された皆様には、心よりお見舞申し上げます。

夏季休業中は、いかがお過ごしでしたでしょうか。幼稚園では、預かり保育「にこにこ」の子どもたちが、テントの下で水遊びをしたり、涼しいホールでボール遊びをしたり、大切に育ててきたスズムシが奏でる素敵な音色を聞いたりして元気に過ごしました。

それぞれのご家庭でも、夏ならではの水の心地よさを感じたり、季節のものをおいしく食したり、日常とは違う場所に出かけ、自然に親しんだりするなど、様々な体験をされたことと思います。幼稚園でも引き続き直接体験を重視し、子どもたちの豊かな経験を引き出せるよう環境を整え、援助してまいります。

夏季休業中に青柳小学校の先生が、「異校種研修」として、預かり保育「にこにこ」に入られる機会がありました。子どもたちと1日一緒に過ごしたり、教材準備などを体験したりしていただきました。

<小学校の先生の感想>

一人一人が自分の気持ちを自己表現している姿が印象的でした。楽しい気持ちを素直に表現している姿が無邪気で可愛いと感じました。自分の思い通りにならず怒る姿などがありましたが、先生が受け止めたり必要なことを知らせたりすることで、納得すると次の行動に移れる様子がありました。就学前の幼児期に、このような経験をするのが成長する上で大切だと感じました。食事やトイレ後の手洗いなどしっかりできていて驚きました。いろいろなことができるようになって小学校に入ってくることを踏まえ、就学前に身に付けてきたことを小学校でも継続できるよう受け止め、関わるのが大切だと感じました。

子どもたちは一緒に楽しく遊んでもらい、「今日だけじゃ嫌だな。また来てね」と伝え、先生は「お隣にいるから、また会えるよ」と、受け止めてくださいました。

5歳児から小学校1年生までの2年間は「架け橋期」と呼ばれ、この時期にふさわしい学びや生活の基盤を育てることが重視されています。幼稚園教諭と小学校教諭が双方の教育・子どもたちの育ちを理解し、切れ目なく支えることが大切です。

今回、小学校の先生に、幼児と一緒に過ごし、教材・環境を整えることなどを体験していただいたことは、幼稚園教育や幼児の育ちや学びを理解していただくよい機会となりました。小学校の先生から伺った感想や気付きを本園教諭で共有し、引き続き、今後の保育や小学校との交流・連携につなげていきたいと思っています。

保護者の皆様、地域の皆様、2学期もどうぞよろしくお願いいたします。



☆かめきんぐやふわもるくんをご家庭で預かってくださった皆様ありがとうございました。